

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年	2学年
使用教科書	大修館書店『新高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『図説新高等保健』				

1 グラデュエーション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる人間に育てる。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい人間に育てる。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい人間に育てる。
カリキュラム・ポリシー	①1・2学年では全員が共通の科目を学び、広く基礎的な知識・技能を身につけます。 ②3学年では選択科目を多く設置し、個々の興味・関心を進路目標に合わせ科目を選択し学びます。 ③授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの授業、ICTを積極的に活用しわかりやすい授業を実践します。 ④長岡市との「探究学習の推進に関する連携協定」のもと、地域の大学、企業、行政と連携し、地域資源を活用した生徒主体の探究活動を実践します。 ⑤学校行事や部活動では、安全安心な環境を整備し、生徒の主体的な活動を支援します。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

3 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用および社会生活における健康の保持増進について理解できるようにし、心身の健康の保持増進を図るための思考力・判断力などの資質や能力を育成する。 ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて 健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとする。そして、ホームルーム活動や学校行事などの特別活動および総合的な探究の時間などにおいて「保健」で身に付けた知識および資質や能力を生かして課題解決などに取り組むことができるようにする。 ③学びに向かう力の涵養に向けて 健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・課題や電子レポート等の提出物の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ペアワークやグループワークでの発言や取組の観察 ・課題や電子レポート等の提出物の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペアワークやグループワークでの発言や取組（他者や仲間への関わり方等）の観察 ・課題や電子レポート等の提出物の内容の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	時数	領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	思春期と健康	1	生涯を通じる健康	教科書 副教材	・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 ・思春期に起こりやすい健康課題について理解する。	課題 電子レポート 発言や取組の観察
	性意識の変化と性行動の選択	1			・自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。 ・性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。	
5	結婚生活と健康	1			・結婚生活と健康との関係について理解する。 ・結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。	
	妊娠・出産と健康	2			・受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。	
6	家族計画	2			・家族計画の意義について理解する。 ・人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。	

学番 3 5 新潟県立長岡向陵高等学校

	加齢と健康	1			・加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。 ・若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。	
7	高齢社会に対応した取り組み	1			・高齢社会における健康課題について理解する。 ・高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。	
	考查	1				筆記テスト
	働くことと健康	1	生涯を通じる健康	教科書 副教材	・働くことの意義と働き方の多様化について理解する。 ・働く人における健康問題について理解する。	課題 電子レポート 発言や取組の 観察
	労働災害の防止	1			・労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。 ・労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。	
8	働く人の健康づくり	1			・職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。 ・働く人の健康には余暇の活用など生活の質の向上も重要であることを理解する。	
9	大気汚染と健康	2	健康を支える環境づくり		・大気汚染による健康への影響について理解する。 ・地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。	
10	水質汚濁・土壌汚染と健康	2			・水質汚濁による健康への影響について理解する。 ・土壌汚染による健康への影響について理解する。	
11	健康被害を防ぐための環境対策	2			・環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。 ・産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。	
	環境衛生に関わる活動	1			・安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。 ・生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。	
	考查	1				筆記テスト
12	食品の安全性と健康	1	健康を支える環境づくり	教科書 副教材	・食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。 ・人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。	課題 電子レポート 発言や取組の 観察

	食品の安全性を確保する取り組み	2			- 食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。 - 食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。	
1	保健制度とその活用	2			- 保健行政の役割について理解する。 - 健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。	
	医療制度とその活用	1			- 医療保険の仕組みについて理解する。 - 医療サービスの適切な活用方法について理解する。	
	医薬品の制度とその活用	1			- 医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 - 医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。	
2 3	様々な保健活動や対策	2			- 日本や世界では健康問題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 - 国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。	
	誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	1			- 自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。 - 健康を支える環境づくりへの積極的な参加が自他の健康につながることを理解する。	
	考査	1				筆記テスト

計 32 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- 単元に応じた課題を出す。
- 学期ごとに電子レポートを課す。

8 担当者からの一言

人の一生のなかで高校生の時期は、保健体育の観点からみても大変重要な意味を持っています。体の大きさは成人に近づいていきますが、体力や心の発達という点からは、成人になるまでさらなる充実が期待されるからです。そのような時期にあって、自らの健康はもちろんのこと、これからの社会を担う一員として、健康やスポーツを社会のなかで考えていける力を身に付けることが求められています。健康は生涯を通じて重要な土台となるものです。それが将来にわたって私たちの明るく健康な生活を生み出し、それを維持していく上で欠かせないということを自覚し、学習に取り組みましょう。

(担当：稲泉誠治)